

坂の上の暮らし を求めて

2023 年 10 月 8 日
させぼ山手研究会 (Sasebo Yamanote
Workshop)
Email: mitsuguhimaki72@gmail.com 電
話 090 (4205) 7471
(編集・責任 檜楨 貢 理事長)

白南風町「道づくり」中間報告会

「せめて、斜面地に軽トラが入る道が欲しい」

そんな思いで白南風町の住民等 32 名が声をあげました。

それを受け、住民有志の田中満雄さんと穂刈隆志さんが「溝に蓋をつける作業」を行いました。自分の家からバールやハンマーを持ち出し、ボランティアで活動を行いました。10月 6 日のことでした。もう少し作業が残っています。

集まれ！10月 21 日（土）13 時 30 分

白南風町 36 番 10 号 旧指山博義邸 2 階

みなさんにこれまでの道づくりの状況を報告されます。同時に住民主体のこの活動の代表者を選び、そのうえで、活動の目標と道づくりのプログラム協議が予定されています。

どうかみなさん。坂の上の暮らしを支える道づくりを進めましょう。まずは「軽トラが入る道」をつくりましょう。

本部近くで『崖くずれ』が発生！

させぼ山手研究会本部敷地の指山博義邸の道路端に、崖くずれが発生しました。9月 13・14 日の豪雨によるものとみられます。当時の気象情報によれば線状降水帯が長崎県北に現れました。その間、白南風町周辺では雷と風雨で嵐が続き、邸内の断水で崖くずれの発生に気づいたということでした。明け方早々に災害の応急措置は行われましたが、人が通れるようにされただけで崩落した石や土砂は現在でも道路端には土砂が積まれています。

3 年前に北側の穂刈邸の石垣が崩落し今年の 5 月に修築されたばかりのことでした。今回の崩落場所から 50m ほど下のバス通り近くもかってがけ崩れがあったとの情報も聞こえてきました。直接的には近年の異常気象によるものでしょうが、本地域周辺における斜面地の老朽化が構造的原因ではないかとの意見もあります。

ごあいさつ

「坂の上の暮らし」11号の発行が 3 月 1 日でした。7カ月以上の休刊期間をこえて、ここに本広報を発行いたします。編集担当者が変わりませんので、内容が大きく変わることはありません。斜面都市佐世保における話題を小紙にコンパクトにくるんでお伝えすることになります。ご愛好をお願いいたします。（ひ）

地域住民が主体の地域づくり

「道づくり」の基本は地域住民ファーストでその第一線に住民がいるのではないか。研究会メンバーからそんな声があがり、そのための活動が始まっています。具体的にはチラシを配布し、39 人の参加者が集まりました。そのうちの有志が軽トラが通れる道整備に立ち上がっています。本研究会はもちろん支援いたします。

斜面地の観光地化

「坂道、脇道、佐世保道」に観光客をエスコートする。白南風町や峰坂町の路地を歩くことを観光にし始めている。佐世保観光コンベンション協会の事業である。居住者や人通りが少なくなった斜面地を観光として売り出している。その観光戦略を地域住民に理解させることが必要だ。居住者は観光資源であって、観光客相手もできるはずだ。